

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013年度	インターン番号	KB223	タイプ	公募型
派遣国	マレーシア		派遣都市	クアラルンプール	
受入機関	Open University Malaysia				
受入機関概要 (事業内容等)	Open University Malaysia は、マレーシアの私立大学で主に働く社会人に向けたオンラインによる高等教育の配信を行っている。マレーシアのOpen Educationのパイオニア的存在である。11の公立大学の出資のもと作られたMETEOR(MULTIMEDIA TECHNOLOGY ENHANCEMENT OPERATIONS SDN BHD)の一部でグループ全体従業員646名のうち542名がOpen University Malaysiaに所属する。				
派遣期間	2013年12月18日 - 2014年2月28日				
現在の所属先	Institute of Education-UCL(所属先を休職して留学中)		当時の所属先	東京音楽大学	
現在の所属部署	MA Higher and Professional Education		所在地	東京	
区分	その他		性別	男性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

マレーシア及びOUMは、高等教育の国際化、民営化、デジタル化、質保障問題等、今後の私学高等教育の方向性を考えるにあたり、非常に参考になる事例だと考え、応募しました。所属機関もアジアの大学とのネットワーク作りという点を好意的に受け止めてくれましたので、参加させていただくことができました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

インターンシップ前半は、OUMのE-learningのシステム運用、教育コンテンツ作成、Onlineシステム上での教授法のワークショップなどに参加させていただきました。新学期の開始時期と重なっていたため、新生の受け入れ手続等で、実際にOnlineで授業を受けている学生、入学を検討している学生とその保護者と触れる機会もありました。インターンシップ後半では、日本人学生向けプログラム及び海外他機関の研修プログラムの補助及びアセスメント、新プログラムの提案などに参加しました。

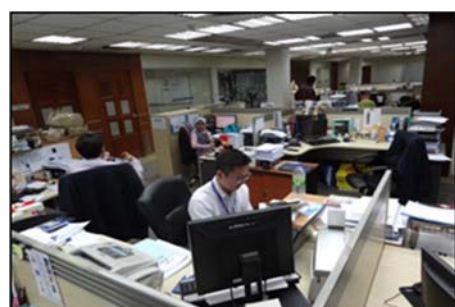
3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

具体的な成果としては、マレーシアの高等教育関係者、舞台芸術関係者とネットワークを作れたことが挙げられると思います。私の場合は、企業派遣ではなかったため、比較的自由に自分が必要だと感じたことに参加できたように思います。インターンという肩書で、色々な人に会う機会がありました。自分の立場や目的を説明し、交渉する機会も多かったため、コミュニケーション能力が向上したと感じます。ネットワーク作りの過程とインターンシップ中の業務への参加を通じて、多様な高等教育の展開を実際に目にすることが出来たことと、高等教育関係者と高等教育に関する問題意識を共有できたことは、現在の大学院での勉強でも役に立っています。マレーシアのワークカルチャーやムスリムの生活習慣に関する理解が深まったと感じています。派遣前・派遣後の研修での他業種の方との交流は、大変勉強になりました。他のインターンの方々の活躍は、現在も、とても良い刺激になっています。

インターンシップ風景



OUMのProf.RamliとASWARA Malaysia(芸術大学)、音楽部学長Ramlan氏のを訪問



International Operation Unit にて、執務中

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

一番大きな影響は、イギリスの大学院で高等教育を学ぶという決断をしたことだと思います。OUMでの業務や他の高等教育関係者との交流を通じて、今まで自分が考えていた「大学」(高等教育)のイメージが大きく変わりました。高等教育をより学術的に大きなフレームで捉え直す必要性を感じ、大学院で学ぶことを決めました。

OUMのVice-President(当時)のRepin Ibrahim氏とは、インターン修了後も日本で数回お会いし、高等教育マネジメントに関する助言や意見交換をさせて頂いています。

私が学んでいるプログラムでは、国際的なレベル、国家的なレベル、組織的なレベルを行き来しながら高等教育について考えさせられることが多いのですが、OUMという非常にユニークな組織、マレーシアというアクティブな高等教育市場を体験していることは、理解の助けになっていると実感しています。

マレーシアは、多様なエスニック・グループが共存している不思議な国でした。こうした環境で過ごしたことから、様々な文化に対する気遣いや気付き=文化リテラシーのようなものを自然に意識するようになったと感じます。こうした意識は、海外で勉強したり、仕事をしたりする際に、その経験をより豊かにするうえで、役立つのではないかと考えています。実際、イギリスでの生活・勉強の際に、こうした文化間の差異を意識することで、以前より多くのことを吸収できるようになったと感じています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

様々な目的・目標を持って参加される方がいらっしゃると思いますが、インターンシップは、実際に組織の内部に入って、就業体験ができるという貴重な機会ですので、積極的にスタッフや現地の方と交流すると得るもの多いのではないかと思います。また、HIDAのスタッフの方は、本当に親身になってサポートして下さいます。迷っている方がいましたら、応募することをお勧めします。

現在の活躍の様子



研究方法の授業でディスカッションをしている様子



Institute of Education -UCLのメインビルディング